

第2期 国分寺市公民館運営審議会 第18回定例会 要点記録

日 時 令和元年5月13日（月） 午後4時00分～6時15分

場 所 本多公民館 講座室

出席者

■委 員 佐藤(一)委員長・田中(英)副委員長・木下委員・高塚委員・萩原委員・戸澤委員・大内委員・松井委員・藤原委員・田中(雅)委員

■職 員 前田公民館課長兼本多公民館長・増本恋ヶ窪公民館長・久保光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・野中本多公民館事業係長・木場本多公民館事業係・山下本多公民館事業係

■傍聴者

1 連絡事項

(1) 配布資料確認

(2) 第16回定例会要点記録確認

委員長：要点記録は

事務局：前回、第16回の記録の配布の際に修正は事務局に連絡をお願いしたが、連絡がなかったため承認でよろしいか。また、第17回の記録がまだできていないので、次回開催通知と一緒に今日の分と合わせて送る。

委員長：第16回の分は承認。第17回は次回に今日の分と合わせて確認する。

2 報告事項

(1) 国分寺市教育委員会平成31年第4回定例会について

事務局：資料1に基づき説明

委 員：コミュニティ・スクールの説明をしてほしい。

事務局：学校運営協議会と同様に、地域の方に学校の運営の話を聞く機関。

委 員：国分寺市には小中学校15校のうち3校がコミュニティ・スクールになっているということか。

委 員：法律上の学校運営協議会を国分寺市ではコミュニティ・スクールとっているのか。

事務局：コミュニティ・スクール設置3校についてはコミュニティ・スクール協議会が学校運営協議会を兼ねている。

委 員：学校運営協議会が置かれてなくてもコミュニティ・スクール協議会があるということか。

事務局：学校運営協議会は全校に置かれている。ただコミュニティ・スクール協議会がある学校については学校運営協議会を兼ねている。この議案は3月定例会で承認されたコミュニティ・スクール協議会委員の委嘱について、3月定例会の時点で間に合わないいわゆる当て職の委員について、教育長の専決という形で委嘱を行ったことを承認いただく内容です。

委員：学校運営協議会を置いている学校を制度上コミュニティ・スクールというのだが、国分寺市は全校学校運営協議会があるということは、全校コミュニティ・スクールではないのか。それとも制度上のコミュニティ・スクールは3校だけで、他の学校は法律上の学校運営協議会ではない、独自の学校運営協議会というものを設置しているということか。

事務局：確認させてください。

3 協議事項

（１）諮問「国分寺のまちを学び共に創りだす公民館活動の今後について」

委員長：内容面での議論を行いたい。最終的な修正に向けていきたい。私の方でざっと読んで作ったメモをお配りしている。また事務局の方で表記を改めた方がいいのではないかと提案のところを網掛けにしてある。検討してほしいという部分もあるようなので私のメモの説明の後、事務局の提案も聞き、その後章ごとに進めていきたい。資料2説明。次に事務局から内容に関わる修正提案をいただく。

事務局：3P「NP0として市から受託」ですが、公民館としては委託しているわけではなく公民館のスペースを貸し出して、NP0法人が就労支援活動をしている形になります。12P「人生100年時代準備会はこの答申を書いている段階では4回目の開催」という部分。答申としてこういう表記でいいのかというところ。こういった経過は答申の中で触れる必要はない。もう少しコンパクトに書いた方がいいのではないかと。

事務局：15P「講座の準備会はこれから開催し～秋ごろを検討している」の部分。同様に今後の予定を答申に入れる必要があるのかをご確認いただきたい。

委員長：結論的なまとめ方をした方がいいかと。

事務局：20P「楽しみとなっている」で終わっているのが違和感。22Pの表、前回ご議論いただいているところだが、20Pの表との違いが見えない。地域のコーディネーターとしてさまざまな団体をバックに学校と連携ということであれば学校とPTAを公民館を介して繋ぐというのはちょっと違うのではないかと。26P④の部分、PTAの現状というか要望というか、公民館運営審議会の答申というには少し違和感がある。地域団体としてのPTAと地域の学習を支援する公民館の関係としては、もう少し連携とか繋がり部分を強調された方がいいのではないかと。

委員長：それでは節に従って意見をいただきたい。まずは構成について。

委員：ローマ数字のⅠ～Ⅵが並んでいる中でⅤの部分に違和感がある。本論はⅠ～Ⅳなので、カッコをつけるとか、表現を分けた方がいいのではないかと。各公民館からの報告を、「補稿」という表現などにしたらどうか。

委員長：最初はコラム形式で考えていたが、レポートのようになってしまったので、いい言葉はないかと。Ⅳで答申は終わっているので、資料とは違う。各公民館の実践報告は毎回の答申に載せるべきもの。おまけではない。

委員：各公民館からの報告というより、各公民館運営サポート会議の報告、案内、たよりなど軽い表現にしてはどうか。

委員長：では言葉は事務局で考えてもらうということでいいか。

事務局：答申はあくまでⅣで終わりということでもいいのか。

委員長：その通り。

事務局：であれば、Ⅳの後に資料編を持ってきてあくまで答申はここで完結して、その後読み物みたいな形で各公民館の報告を持ってきてはどうか。

委員長：Ⅳの後に一段下げて資料編を入れ、最後に各公民館運営サポート会議の報告を持ってくる。

事務局：資料編を先に入れることで締めていただくというイメージ。

委員長：内容的には資料より中身のある報告なので。最終的には事務局で調整してほしい。

事務局：了解

委員長：では第1章に入る。国障連の件は了解した。他にあるか。

事務局：NHKの用字用語辞典に沿って表記は直させてもらっている。

委員：なにがNPOなのか、国障連なのか喫茶なのか

委員長：国障連がNPO。

委員：国障連喫茶がNPO。市からということで、地域活動として市から委託を受けている。

委員長：国障連の報告書にはそのように書いてあった。国障連喫茶というのが喫茶ほんだとかだまを運営しているということでもいいのか。

委員：そのとおり

委員長：ではもう一度そのところを確認してください。

委員長：では第2章に入る。

委員：8P利用目的の分類について、第1ワーキンググループの議論の中で分類したので、それを明記したい。

委員長：確かにそういった分類が元々あるかのようにも見えるのでそうしてほしい。

副委員長：「人生100年時代」のところはどうするか

委員：指摘通り直す。

副委員長：15Pも直す。ご指摘通りだと思うので修正したい。

委員：アンケートのところだが、出典の説明ということであれば入れてほしい。また、41Pのアンケートの部分、あえて公民館名を入れずにABCDEとしたが、事業名や協力団体などを見れば結局わかってしまう。それならば公民館名を入れたほうがいいのか。

事務局：特に問題ない。反響のあった講座ということで順不同で3つ摘出したということだが、1～3の番号が順位に見える。何か工夫が必要ではないか。

委員長：順不同と入れればいいのか。聞いている項目を正確に表した方がいい。

委員：修正する。

委員：9P表、サードエイジの範囲は65歳以上男女と50代女性としたが、50歳以上の男性を入れた方がいいか。

副委員長：サードエイジをそう定義したから。

委員：一般的定義がないのなら，表は資料として入れた方がいいのでは。

委員：グループ内では 65 歳以上と，子育てがひと段落した女性をという話をしていた。

委員：女性も子育てが終わった後も働いているから。男女差をつけるのはあまり良くない。

委員：未来を見据えれば，40 代男性だって，50 代男性だって，子育てが終わって働いている女性だって公民館に来るよにということと考えたら，男女差をつけない方がいいのではないか。

委員長：「サードエイジ」について，一般的な定義がないのでここではこう捉えるみたい。ここでは 65 歳以上の男女と，参考資料としての 50 歳から 65 歳未満の女性が載っている。

委員：資料として数字を正確に出すことと，ジェンダーの視点から 50 歳から 64 歳未満の男性も載せておいた方がいい。

委員長：表はグループで作ったのか。

副委員長：そうだ。

委員：統計から実数抽出をし，計算して作成している。

副委員長：表の見た目から 50 代以上男性を入れるのはいいが，50 代女性が育児が終わり，仕事する人もいるし，そうじゃない人もいるのと同じように，男性も 70 歳まで働く人もいればそうでない人もいるということで，65 歳を起点にしている。

委員長：そこは動かせないのは当然だが，参考の表は 50 歳以上とそのうち 65 歳以上という形か，64 歳までと 65 歳以上で分けるか。

副委員長：公民館としてはどちらの方がいいのか。

事務局：前段の方でいい。

委員長：では 50 歳以上，内 65 歳以上という形で修正をお願いします。

委員：全体的な表現，敬語は答申文ではあまり使わないから修正を。

委員長：細かい表現の修正は了解。

委員長：では 3 章に入る。大きな問題は 22P の図について。

委員：どのように直せば伝わるのか。意見が欲しい。

委員長：事例がコミュニティ・スクールの事例になっている。

委員：コミュニティ・スクールは関係ない。あくまで公民館の視点から見ている。

副委員長：公民館のコーディネーターの部分だけが PTA や児童館などにつないでいると，公民館がそれを全て背負って小・中学校と手をつないでるように見える。そうではないことは議論を通じてわかってはいるが，この図からは読み取れない。

委員：ではどうしたらいいのか。具体的な提案が欲しい。

副委員長：3 者で手をつなぐ形ではいけないのか。

委員：ここで言っているのは小・中学校でやっている学習をベースに，公民館で引き継いで利用者を増やすことにつなげていこうということなので，どうも意図が伝わっていない。

委員：事例が偏りすぎたのか。公民館がさまざまな団体と連携したうえで小・中学校と連

携したという事例になっていない。

委員：コーディネーターとは連携をとるだけなのか。何かあったときに解決の知恵を持つものへ繋いであげるとのことと私は認識しているのだが。公民館が「知恵袋」を抱えて、さまざまな問題を解決しようというのが、この図の意図だ。

委員長：それは2の異世代交流事業の取り組みで表しているのではないのか。公民館が中心となっていていろいろな子どもたちが主役となる活動をしている。3は其中で絞り込んでカルタとコミュニティ・スクールという文章になっているように読めるのだが。

委員：少し認識が違う。小・中学校を基準に考えている。

委員長：そうだとしたら図の中心に小・中学校がこないとおかしい。コミュニティ・スクールの図は学校が中心。

委員：コミュニティ・スクールではない。

委員長：2で全体像を捉えてる。公民館がコーディネーターとして子どもの地域での遊びを中心に、いろいろなつながりを活用しているというのが2の趣旨ではないのか。

委員：コミュニティ・スクールは市内15校のうち3校しかないのに、それで捉えようとするのは違う。この公民館運営審議会は昔と違って国分寺市全体を捉え話す場ではないのか。3校しかないコミュニティ・スクールに特化して議論を進めるのはおかしい。

委員：学校でできないことを公民館でやるという意味がある。手をつなぐというのは、学校が今大変で子どもたちになかなか寄り添うことができない。そこを公民館がいろいろな団体とつないで、公民館の事業としてやっていこうという趣旨。それがたまたまコミュニティ・スクールだったりカルタであったり。P連も求めているから、それを利用して利用者を増やすために公民館で何ができるかを考えている。

委員：小学校での課題を、公民館でできるのであれば、それを利用して利用者を増やすことにつなげられないかを考えている。

委員：連携ということはこの図で理解できる。ここで書かれている小学校での昔遊びなど伝統の学習をいつ学ぶのかを調査して、公民館で学びの続きができるようにするということを、ここの図で具体的に示せないか。学びの続きの場として公民館が利用できるという流れをここで示せば、連携については前の図で示しているのだから。

委員：小・中学校の学びの続きとしての公民館での学びを、さまざまな地域がそれを支える形はどうか。図案を提案。地域資源を利用して、小・中学校で学んだことを公民館で続きができることを具体的に表現したらどうか。

委員長：学びのプロセスを図で示すのは難しいが、どうしてもこの図が機関連携に見えてしまう。機関連携は前のページで示している。誤解を生じさせるのであれば図を削除し、文章だけで表現するのも一つの案だ。

委員：コミュニティ・スクールではないということで、「ここではコミュニティ・スクールの事例を取りあげる」と一言入れたらどうか。事例の説明を入れたほうがいい。

委員：そこまでコミュニティ・スクールが強く出ているのであれば、少し直さないといけないと思う。

委員：本文にはそう書いてはいないと思うが。

委員長：「学校やコミュニティ・スクールで学習されているか」と書いてある。

委員：事例として説明すればいいのか。

委員長：コミュニティ・スクールは3校であり、そのほかの学校もさまざまな形で公民館と連携を取っているということを明記すればいいのではないかな。

委員：そこまで記載が必要か。22Pの昔遊びや伝統の部分はグループ討議の時に限定するからほかの表現にしようという話にならなかったか。

委員長：地域の自然活動など、全体的に視野を入れたほうがいいのではないかな。その方が公民館と学校の連携を正しく表現できていると思う。

委員：学びを大きく捉えて、どのような学びがいつ学校で学習されているか。学校とコミュニティ・スクールを並列にするのはちょっと違和感が出てくる。公民館と学校の連携を言いたいんだからこの文章を直せばいいのではないかな。

委員長：では事例をもう一つ、コミュニティ・スクールではないものを追加すればどうか。

委員：たまたまかかわっている人がいたので、書いただけなのだが。これが一番注目されているものではないのだが。

委員長：でも（2）がどうしてもコミュニティ・スクール中心に見えてしまう。

委員：そうではないのだが。

委員長：そうであれば事例4を追加する。もしくは事例1にもっと一般的な取り組みを持つてくこともできる。農園やホテルなど面白い取り組みをいっぱいやっている。

委員：学校農園と公民館との連携はない。地域の人がボランティアでかかわっている例はあるが。

委員長：事例の内容を再検討することと、図をどうとらえるかということをもう一度検討してほしい。

委員：この事例の部分、コミュニティ・スクールという表記が必要か。たまたまコミュニティ・スクールがある学校だからそう書くが、ない学校も同じような取り組みをやっているはず。

委員：だから事例。

委員：サマースクールのコミュニティスクールの取り組み例とわざわざ書く必要があるのか。

委員：ほかの学校の事例を集めてこなればいけないのか。

委員長：多様な事例が必要。これだけではどうしてもコミュニティ・スクールのことと読めてしまう。

委員：他の館でやっているのを館長が把握しているだろうから、それを聞いたらどうか。

委員：学校で取りあげていることを公民館事業につなげるのだから、今学校でやっているものを取りあげている。学校で取りあげているものを示すのだから、今公民館からは見えない。

委員：どこの学校でも同じようなことをやっているの、コミュニティ・スクールではなく他の学校の取り組みを入れて書くことはできる。

委員長：それは事例なのか、本文の修正か。

委員：事例はいろいろな学校の取り組みを書くことができる。

委員長：部活と連携して公民館で講座をやっている例があった。

委員：中学生に習うパソコン講座。

委員：光のお茶会やレゴ講座。

事務局：高校の部活になる。

委員長：小中学校に限るのか。

委員：そうではなく、小・中学校で取り上げていることを公民館でやろうということだからレゴは違う。

委員：そもそも公民館に子どもが来ないということから始まっているので、学校でやったことの続きが公民館でできるよと言って公民館に来させることが目的。学校も、今の教員はやる人が多いので、公民館と連携すれば軽減されるのではないかという話。

委員：学校ではどうしても期間が限られる。それを公民館で継続できればという環境を作ってあげたい。

委員：学校が地域の力を借りたいと思った時に公民館がコーディネーターとしてつないであげる。逆に公民館の持つつながりを学校に伝えてあげることもできるので、この図の手をつなぐという意味につながる。

委員：とにかくこの事例を増やすか。

委員長：1週間の間にできるか。6月3日提出するために期間は短い。

委員：子どもだけでなく保護者もかかわるようになったことを事例に書いたのだが。

委員：質問だが、PTAは参加するだけなのか、関わって一緒に作っていくのか。

委員：コミュニティ・スクールとPTAは別。

委員：委員に入ってもらっている。一緒に連携して作っていくという考え方だ。

委員：PTAは入っているがPTAとして入っているのかは学校ごと考え方が違う。

委員長：学校と公民館の関係性が見えるように、その辺を踏み込んで書いたらどうか。大きな問題になってきた。

委員：私用で退席するのでまとめて発言させてほしい。表現の修正の提案と、26PのPTAの部分。公運審としてPTA批判をしているように感じる。前の段落に統合して、PTAの今の現状を客観的に書く方がいいのではないかと。⑤の公民館はPTAの学びをサポートしましょうというところをもっと強調して書いた方がいい。

委員長：公民館との関係を述べるにあたって現状に触れる程度でいいのではないかと思う。かなり意見が出たが、修正の部分はよろしいか。

事務局：先ほど修正提案をさせていただいたが、今の議論の説明でだいぶ理解できた。私は今まで学校との関係は、公民館が持つつながりを生かした学習の提供のイメージが大きく、校で行う学習の続きを公民館で行うという考え方へ繋がらなかった。

そうであれば今出ていた説明を、もう少し図や文章に入れれば、解りやすいのではないか。

委員：具体的に提案してほしい。

委員：私は文章から読み取れた。図を変えれば問題はない。

委員：双方向の関係を図にどう表現すれば伝わるのか。

委員：今までの公民館はこの方向だけだったが、これからはみたいな提案型にしたらどうか。

委員：今までの公民館の考え方なんてわからない。別に逆方向を提案しているわけでもない。

委員長：答申は館長だけが読むのではなく、公文書だから市民の目にも触れることを考えてほしい。この場の議論で深まってお互い理解されたとしてもそれだけでは意味がない。時間がない中で、修正するにあたり、どう直すか。

委員：PTAにとってなぜ学びが必要かを明示しないと公民館になぜサポートしてもらう必要があるか伝わらないと思ったが、細部に入りすぎたようだ。

委員長：公運審として客観的にまとめていかなければならない。少し公運審として細部に入りすぎている。

委員：先ほど事務局の指摘にあったサポートの部分も直す。

委員長：相互で学習連携ができることを示した方がいい。

委員：22Pの図。何か加えればいいのではないかと思うのだが。

委員：図は削除する。

委員長：図を削除するなら相互性の説明を2行くらい、簡単に本文に足せばいいのではないか。あとはコミュニティ・スクールの部分を一般化する。であればそこまで大きな修正ではない。

事務局：段落の修正等で明確になると思う。

委員長：今回の答申は新事業をはじめとした提案を具体的にするのが趣旨だから、明確にしてほしい。図の部分については事務局とやりとりしてまとめてほしい。あとは出典などは正確な記載に修正してほしい。

委員：20Pの図の名称を正式名称に修正をお願いする。

委員：了解した。

委員長：では修正した原稿を事務局に送ってほしい。そのあと語句表現の修正を事務局で行った後、最終確認を各自でして、事務局へ連絡してほしい。ではこれで第18回定例会を終了する